

令和3年度 福祉用具研修会

振り返りシート・アンケート結果の報告

テーマ「福祉用具導入におけるリハビリテーション専門職の活用方法を知ろう！」

目的

自立支援や介護者の負担軽減を図る上で、福祉用具は重要な役割を担っている。
福祉用具の選定には、身体機能評価が必要であり、リハビリテーション専門職の関与が望ましい。
そこで、本研修会では、福祉用具導入のマネジメントを行なうケアマネジャーを中心に、事例を通してリハ専門職が福祉用具選定に加わる必要性や利点と活用方法を伝える。

開催日時

令和3年11月7日（日）13:00～15:00

参加者

ケアマネジャー：21名（事例提供者3名含む）、リハ専門職：1名、福祉用具専門相談員：2名

内容

テーマ	講師
導入「環境整備の重要性とリハ専門職の活用」	但馬長寿の郷 地域ケア課 谷垣 佑樹
① ツールを用いて早期にリハ専門職が介入、身体状況に合った福祉用具の導入等により、活動的な生活を送るようになったケース	朝来市社会福祉協議会いきいき介護センター 足立 陽子 氏
② 身体状況に合った福祉用具への変更を受け入れることが難しかった本人・家族が受け入れたケース	さくらの苑居宅介護支援事業所 中島 寛子 氏
③ 介護負担の蓄積により腰痛を抱えた家族介護者に介護技術とリフトを導入したケース	JAたじま浜坂介護センター 磯田 ますみ 氏

事例1

「ツールを用いて早期にリハ専門職が介入、身体状況に合った福祉用具の導入等により、活動的な生活を送るようになったケース」

事例の概要

- ・ トイレに向かう途中で転倒、左大腿骨転子部骨折。要介護1→要介護4
- ・ ツール※を用いて、客観的にリハ専門職の早期介入と環境整備が必要と判断
- ・ 起居動作・歩行動作改善のため、リハ専門職の助言・環境整備(特殊寝台、歩行補助用具等)が行われる
- ・ 動きやすくなり、動くことに自信が付きはじめる。デイサービスに依頼し、歩行の機会を増やす・馴染みのご利用者からの声かけをもらい、活動意欲がさらに向上した
- ・ 自宅ではポータブルトイレ自立、デイサービスではトイレ自立まで改善した

※在宅リハビリテーションサービス導入判断ツール(当郷作成、ホームページにてダウンロード可)

ツールについての意見

- ・ 客観的にリハサービス導入の必要性を判断できる
- ・ 本人、家族への説明材料に使い、早期からのリハサービス導入に有効
- ・ ADLの改善が視覚的にわかり、本人の活動意欲の向上につながる

ケアマネジャーの気づき

- ・ 意欲が向上するように、デイサービスへ働きかけ(職員、他利用者からの声かけ)をされたのはすごい
- ・ 認知機能に問題がなく、本人の意欲もあったため、ケアマネジャーとしていろいろな提案ができたと思う

明日から取組んでみたいこと

- ・ 在宅リハビリテーション導入判断ツールを活用する
- ・ ツールを活用して専門職と連携を図る
- ・ 早期からADLの低下に気づき、福祉用具導入のタイミングを見逃さない
- ・ 周りにもツールの利用を啓発する

事例2

「身体状況に合った福祉用具への変更を受け入れることが難しかったが本人・家族が受け入れたケース」

事例の概要

- ・ 喘息悪化による息切れと座位姿勢不良により車椅子の変更が必要と判断
標準型→ティルト・リクライニング型
- ・ 本人と家族に提案するが、本人は拒否、家族も本人が拒否するなら仕方ないのでは？と変更には消極的
- ・ 本人が拒否する理由をアセスメント。変更が必要な根拠を身体機能から説明する必要があると判断
- ・ リハ専門職の視点で変更の必要性の有無を尋ねる。本人・家族へ根拠を説明してもらい試用に至る
- ・ 車いす選定への助言、背張り調整等のフィッティングにより、楽に過ごせるようになり、変更を受け入れる

福祉用具の導入についての意見

- ・ 拒否の原因をアセスメントした上で、専門職と連携して、本人・家族にわかりやすく情報提供することが大切
- ・ リハ専門職と福祉用具専門相談員の両者の知識(身体機能評価、用具の選定、フィッティング)が必要

ケアマネジャーの気づき

- ・ 見立てから導入、受け入れまでじっくり利用者に対応されたことは素晴らしいと思った
- ・ リハ専門職と福祉用具専門職が同席する場をもったことは良かったのではないかと

明日から取組んでみたいこと

- ・ 福祉用具導入に到らなかったケースの再アセスメントを行なう
- ・ 家族を含めてフィッティングの体験をしてもらう
- ・ 長期的に同じ用具を使っている場合、専門職と同行し今の状態に合っているかを見直す

事例3

「介護負担の蓄積により腰痛を抱えた家族介護者に介護技術の指導とリフトを導入したケース」

事例の概要

- ・ 全介助レベルの母を娘が介助していた
- ・ スライディングボードでベッドと車いす間を移乗していたが、介護負担は軽減しなかった
- ・ リハ専門職の身体機能評価より、スライディングボードの適応から外れていることがわかり、リフトの提案を受ける
- ・ リフト導入により、移乗時の介護負担が大きく軽減する
- ・ 移乗用具変更への助言のほか、介助時に腰への負担が少ない身体の使い方、ポジショニング指導等、介護技術の指導を受けたことで、介護者の介護負担軽減と被介助者の拘縮予防等による将来的な介護負担増加を抑制できた

介護負担軽減についての意見

- ・ 在宅生活を続ける上で、介護者のケアも大切
- ・ リフト導入には経済面、介護者の理解度等から躊躇するが、迷ったときは専門職に相談しようと思った
- ・ リフトやクッション等の導入後には、使い方の確認のために再評価が必要

ケアマネジャーの気づき

- ・ リフトの導入が一番ハードルが高いと思っていた。リフトの必要性を感じたとき、家族の腰痛を「仕方ない」では済ませなかったケアマネジャーの思いが素晴らしいと思った
- ・ リハ専門職と関わることで、介護負担軽減から拘縮予防までプラスの効果があり、リハ専門職の重要性・連携することの大切さを学んだ

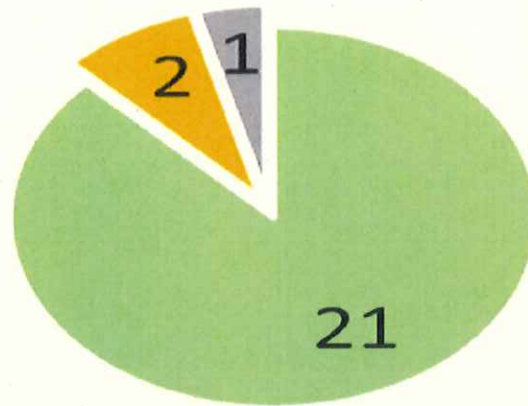
明日から取組んでみたいこと

- ・ 介護負担軽減の候補にリフトを入れる
- ・ リフトの導入が有効かもと考えたケースのプラン再考
- ・ 介助しやすいベッドの配置になっているか確認してみる

アンケート結果

Q.1

参加者の基本属性

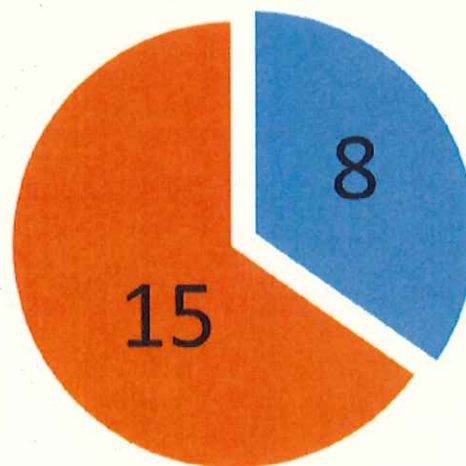


- 福祉用具専門相談員
- ケアマネジャー
- リハ専門職

※事例提供者含む
(内訳:参加者21名、事例提供者3名)

Q.2

研修内容の理解度

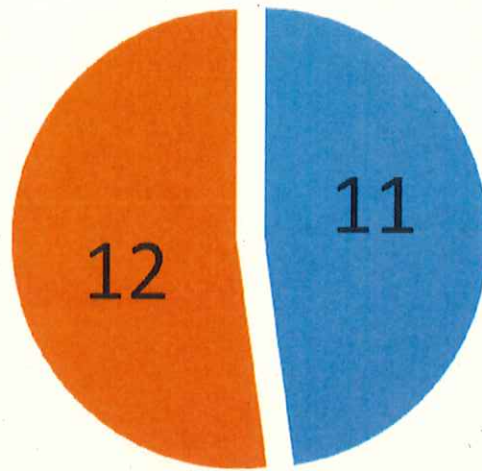


- 理解できた
- よく理解できた
- あまり理解できなかった
- わからなかった

※以下のアンケート結果から23名で集計
(内訳:参加者20名、事例提供者3名)
1名未提出のため、計23名。

Q.3

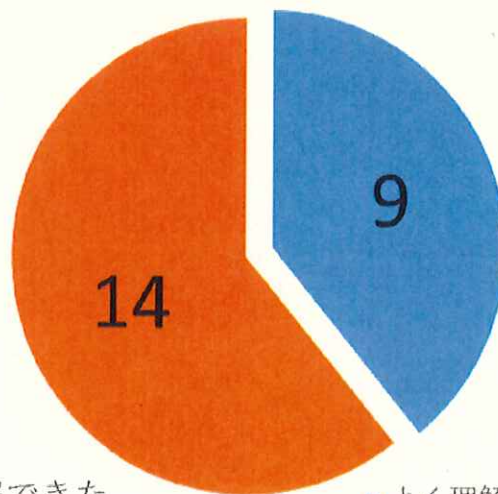
研修内容は業務で役立つか



- 役立つ
- 大いに役立つ
- あまり役に立たない
- 全く役に立たない

Q.4

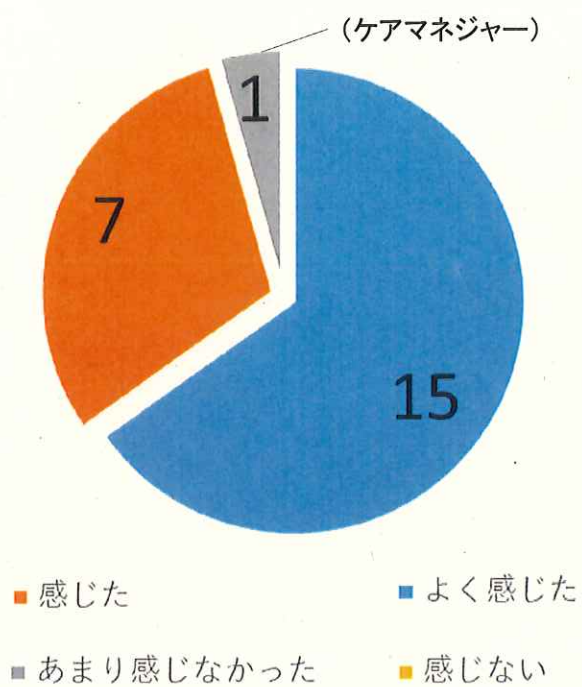
リハ専門職の活用方法が具体的に理解できたか



- 理解できた
- よく理解できた
- あまり理解できなかった
- わからなかった

Q.5

今まで以上にリハ専門職を活用しようと感じたか



Q6. 今後の研修についてのご意見・ご感想などご自由にお書きください

ケアマネジャーだけで何とかしようする気持ちがありましたが、専門職（それぞれ）の協力が大事だと思いました。一度だけでなく、何回も話し合う機会が必要。本人様の想いをしっかり確認し、家族の想いが優先してしまう事がありました。介護する側、される側の両方をしっかり見極めていきたい。リハ専門職へ依頼したいと思いました。

専門職とチームを組み環境を整える必要がある。ケアマネジャーがアセスメントする上で、専門職の活用（の）必要性が再度重要と思いました。新しい福祉用具がどんどん出る中、利用者様に導入することが大事であると思いました。

専門職の活用の再認識と連携の必要性（を学んだ）

リハ職、福祉用具の方の定期的な再評価により、より生活しやすい環境が作られると思う。

他事業所の貴重なお話（ソース）が聞け勉強になりました。

自立支援をめざすために環境整備は大切だと思った。CMが福祉用具導入のタイミングに誰に何を相談するかを考える事も大切だと考えています。

リハ職、福祉用具専門相談員との連携は、私のマネジメントの中では必須なので、これまでどおりのスタンスで関わっていきたいと考えます。

知らないことを知れてよい研修だった。リハビリツール、スライディングシート、ポジショニング＋リフトで拘縮予防（が行えること）

「福祉用具の活用＋リハ専門職の同行」の重要性を再認識できました。日々の業務に流されて気付いていない部分に改めて気づかされた気持ちです。明日から自分の活動にも大きな影響をあたえる研修でした。専門職との連携はCMの仕事に重要な要素と思います。今後はもっともっとツールとともに連携を取りながら、より良い活動ができる様に取り組んでみたいと思いました。とても大切な研修に参加できてよかったです。

施設ではリハ職と関わるタイミングがなかなかないので、もっと定期的に関わりがもてたり、気楽に相談できるつながりがあると助かるなと感じました。

タイミングが大切。モニタリングも大切。適切な用具の使用で全然変わってくる事がよく分かり、勉強になりました。

在宅リハビリテーション導入判断ツールや市の在宅リハビリテーション派遣事業の活用をしていきたい。多職種連携での支援を今後も意識していきたい。すでにリハビリテーション専門職がサービス支援者として導入している場合、市の在宅リハビリ事業など専門職派遣事業を依頼するのは何だかふみ出せずにいます・・・。CMとしては、その日（長寿から訪問される日）にチームで共有できる良い機会だなと思いますが・・・。

福祉用具に係る業種の方々との研修を今後もお願いします。

全ての利用者様へのリハビリ専門職のアセスメントは不可能かと思われませんが、この様な福祉用具研修会での事例紹介を重ねて勉強にしたい。